

市民広聴会「まちづくりほっとミーティング」

テーマ：子どもの発達にお悩みの家族への支援

会議録（概要）

日時	令和5年7月22日（土） 10時～11時30分
会場	こども発達センター
出席者	参加者（公募）16人、市長

1. 市長あいさつ・趣旨説明

- ・今年度のまちづくりほっとミーティングは実際に不安や心配などを抱えているかたの声を直接聴き市政に反映していくことを目的に開催する。今回は子どもの障がいや発達への心配を抱える家族への支援について話し合いたい。

2. 意見交換内容（参加者から出た意見）

【発達に心配がある子がいても、子を預けて働ける選択肢について】

- ・岡崎市には発達に心配がある子の預け先の選択肢が少ない。
- ・誰もが人間として質の良い生活を目指すために働き、その上でどこまで子どもに寄り添えるかを探りながら生きていると思う。仕事も子どももないがしろにしたくないのが基本。もし、今の仕事では子育てとの両立が難しくなった場合、転職しても生活の維持ができるかが心配。キャリアがあつての給料だと思う。生活が維持できて、かつ、最大限子どもに寄り添える働き方を模索している。
- ・フルタイムで働くとなると正社員で会社への責任もあるが、子の療育に必要な時間は働く時間を削らないといけないため周りの理解が必要。また、フルタイムで働きたくても預けることができる時間は決まっているから、働くことを諦めたり、肩身の狭い思いしながら働くことになる。あともう少し長く預かってくれたらフルタイムで働けるのに、という声もよく聞く。
- ・親として、生活の質を落とさないためにフルタイムで働きたい。あと少し早くから、あと少し遅くまで、預かってくれるとフルタイムで働ける可能性が出てくる。”あと少し”の支援が欲しい。

- ・小学校に入学するまでの子どもを預かってくれる場所は充実していて、フルタイム、正社員で働くことができるが、小学校に入った途端に預け先がなくなってしまう。せっかく続けてきた仕事を辞めたくはないので子どもが成長しても働き続けられる選択肢が欲しい。
- ・小学校に入ると親が送り迎えをしないといけなくなり、働きながらの対応は難しい。送迎をしてくれる学校は限られていて選択肢がない。
- ・働くことは人生の一部だと思う。生まれてきた子に障がいがあることが分かったら、そこですぐに仕事を辞める決断ができる人は少ないと思う。お金だけが問題ではなく、結婚生活、子育て、仕事に対して自分が思い描いてきたものを手放すことはとても難しい。障がいの有無に関係なく、安心して働けるまちであって欲しい。
- ・就労状況によって放課後デイサービスと児童育成センターの併用を検討しているが、児童育成センターは利用する日数が少なくても月額のコストがかかってしまう。併用しないで済むように働く時間を減らすことも考えなくてはならない。利用料が日割りになればこういった悩みが減ると思う。

【障がい者手帳を持っていない子に対する支援について】

- ・発達障がいの診断が出ていても障がい者手帳を持っていないと受けられない支援がある。支援が必要な子が必要な支援を受けられるように改善してほしい。

【保育士に対して療育についての研修・教育について】

- ・実際に、親から説明をしないと療育を知らない保育士もいるようである。保育士への研修を行ったり、専門の知識があるかたに保育をしてもらえると安心である。
- ・療育はちょっとした工夫でできるものだと思う。保育士が発達に遅れがある子の扱い方を知らないと、扱いに困ってしまい伝え方が乱暴になったりする。それを見た周りの子にも悪い影響を与えてしまうと思うので、保育士が学ぶ機会を増やすべき。
- ・保育士を目指す学生たちが、障がいのある子を実際に見て、触れ合って、療育やリハビリを学ぶ機会があると良いと思う。学生のうちに経験を積んで知識を付けて社会へ出ていけば現場の見え方が変わると思う。

【発達に心配がある子も受け入れてもらえる園について】

- ・周りのお母さんたちからは「おむつが外れていなくても就園できる」と聞いていたにもかかわらず、園から「おむつが外れていないと入園は難しい」と言われたことがある。園によって研修不足や人的不足といった現状があるのかもしれないが、それによって選択肢が限られてしまうことがないように受け入れ体制を整えて欲しい。

- ・発達に遅れがある子でも通えるこども園を増やしてほしい。地域が偏ることなく市内に分散すれば通いやすくなると思う。
- ・発達に遅れがあると入園先の候補も限られてしまうのに、入園を断られ、抽選からも外れてしまうと本当にどうしようもなくなってしまう。公立のこども園が増えたり、私立の幼稚園でも療育先と連携のとれる園があると良いと思う。

【発達に遅れがある子やその親が気兼ねなく交流できる場について】

- ・子育て支援センターやプレイルームなどへ連れていきそこに来ている子たちと混ざって遊ばせようとするが、遊び方が分からないのか、うまく遊べないことがある。また、ここにいるのは同じ悩みを持つ親同士だと思えば、意見交換をして情報共有したり共感したりして繋がるができると思うので、発達に遅れがある子だけが集まる曜日、時間などがあると良い。
- ・発達に遅れがある子の親が孤独感を抱いていることを知ってほしい。誰でも来ていいよ、と言われても躊躇して行くことができない親もいる。子どもを連れてプレイルームへ行ったり、支援センターに遊びに行くことすら諦めてしまう親もいる。
- ・子育てをする上で、パートナーも子の障がいを受け入れることができているかはとても大事だと思う。同じ境遇や悩みを持っているかたたちと交流することが障がいを受け入れることに繋がると思うので、性別に関係なく気軽に交流できる場があると良いと思う。

3. 市長総括

- ・今日の意見にもあったように、悩みや不安を共有することで前進できることもあると思う。今日ここに集まってくれたことが意義の一つでもある。皆さんからいただいた意見は今後の市政の参考とさせていただく。